

令和6年度小牧市総合教育会議 会議録

| | |
|------|---|
| 日 時 | 令和6年8月30日(金) 10時00分～12時00分 |
| 場 所 | 小牧市役所 東庁舎5階 大会議室 |
| 出席者 | <p>【委員】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長 中川 宣芳 小牧市教育委員会 教育長 伊藤 和子 小牧市教育委員会 委員(教育長職務代理者) 加藤 由美 小牧市教育委員会 委員 野中 亮秀 小牧市教育委員会 委員 古田 重紀 小牧市教育委員会 委員</p> <p>【事務局】 (市長公室)</p> <p>笹原 浩史 市長公室長 駒瀬 勝利 市長公室次長 松浦 一将 市長公室 秘書政策課長 上原 みよ子 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 波多野 晴菜 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 (教育委員会事務局)</p> <p>伊藤 京子 教育部長 矢本 博士 教育部次長 丸藤 卓也 教育委員会事務局 教育総務課長 長谷川 真 教育委員会事務局 学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹 采女 隆一 教育委員会事務局 学校教育課管理指導主事兼主幹 遠山 史織 教育委員会事務局 教育総務課 庶務係長 稲垣 翔太 教育委員会事務局 教育総務課 庶務係</p> |
| 傍聴者 | 4名 |
| 配付資料 | <p>資料1…構成員名簿・配席図</p> <p>資料2…小牧市新たな学校づくり推進計画(案)【概要版】</p> <p>資料3…提出された意見および市の考え方【要約版】</p> <p>資料4…提出された意見および市の考え方【全体版】</p> <p>参考…小牧市新たな学校づくり推進計画(案)【全体版】</p> |

内容

1. 市長あいさつ

山下市長よりあいさつ

2. 教育長あいさつ

中川教育長よりあいさつ

3. 議題

(1) 小牧市新たな学校づくり推進計画について

資料2～4に基づき事務局より説明。

山下市長)

説明がありましたとおり、パブリックコメントにて多くの意見が提出されたところであり、資料3をもとに、提示された意見を見ながら、教育委員の皆様方と意見交換をさせていただければと思います。

学校再編イメージについて、一番多くご意見をいただいていますので、まずはこちらから意見交換をさせていただければと思います。賛成・反対、様々な意見があったところであり、再編となると、母校がなくなるとか、地域の拠点であった、地域の中心であった学校がなくなるとか、そういった反対意見があることは当然だと思っています。そうしたご意見もしっかり受け止めながら、一方でどうしていくのかという、未来に繋がる現実的な議論も必要だと思っています。しっかり議論をして、それをまた皆様方にフィードバックをしながら、議論を積み上げていくことが、私や教育委員会の役割であると考えています。ご意見に触れて、それに対してのご意見等があればお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

古田委員)

小牧市の児童生徒がどんどん減っていくという厳しい現状があるということ、市民の皆様によく理解してもらってことが必要ではないか、まずはそこから始まるのではないかと、我々は思っています。

今回、計画を示すことで、再編をイメージいただいて、色々な意見をいただきました。私の見方としては、この状況をどうにかしなくてはならない、という共通理解は概ね得られたのではないかと感じています。具体的にどのように進めていくかは、やはり不安の声が非常にあるため、丁寧に対応していかなければと考えています。

山下市長)

ありがとうございます。

現状について、まずは市民の皆様にも正しく情報をお伝えして、ご理解をいただいて、議論を進める上での土台となる共通認識を持つということが第一ですから、そのとおりだと思います。これについては、私と教育長とでタウンミーティングに出席して、皆様と直接お話しする機会を設けたり、その様子を動画で配信したりしてきました。そして、この新たな学校づくり推進計画案も公表して、再編イメージを皆様にお示しして、ご意見を頂戴するプロセスをとりました。保護者の皆様へも、広く情報発信されたと聞いています。

中川教育長)

やはり、現状の各ご家庭にも周知しなくてはということで、夏休み前に保護者への情報発信ツールで案内をいたしました。保護者の皆様からは、こういう状況だったのかという反響もあり、広く現状を理解いただけたと思っています。

山下市長)

児童生徒、そして保護者の皆様へは、こうした議論がされているのだということを直接情報発信していますので、これを知らないということはないというところまで、この半年ぐらいで到達できたと思います。他にご意見を見て、何かお感じになることあればご発言いただければと思います。

野中委員)

学校の歴史とか地域の繋がり、地域の実情など様々なことがありますので、学校再編に対しての反対意見も少なからずあるものと思いますが、やはり、こどもたちの教育環境というものを、第一に、最優先に考えていきたいなと思っています。こどもたちの学びや育ち、こういった部分を大前提として考えていきたいなと思っています。

また、パブリックコメントの中で、学校再編の周知をきちんとした上で、それから生まれてくる子どもたちから統合してほしいというご意見がありました。おそらく学校再編は、実現までに10年、15年、20年かかる話だと思っています。それを考えると、将来生まれる子どもたちのためであっても、今から動かないと全然間に合わない話だと思っています。ここで立ち止まると、どんどん次の世代の子どもたちが大変な思いをしてしまうのではないかと考えていますので、皆様へ周知しながら、できるだけ早く話を進めていけたらなと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。もとよりこれは子どもたちの教育環境をより良いものにしていくことが大事だ、ということは皆様の共通認識だと思いますので、そのためにしっかりと議論して進めていきたいと思っています。学校の統廃合や再編は、やはり一定の時間がかかります。最速で動いたとしても、例えば老朽化した校舎を建て替えて統合する場合、まずは合意形成を図った後に、構想、設計、そして建設をして引っ越しをするわけですから、統合が決まってから供用開始までに最低でも4、5年はかかると考えています。そもそも合意形成までに少なくとも1年は必要だと思います。となれば、現在通学している中学生には差し掛からないですし、小学校の低学年の子どもたちに関係するかしらないかというところだと思います。市全体で考えれば、10年、15年というスパンだと思われます。10年、15年となると、今生まれた子どもたちがおおよそ中学生になりますから、本当に今まさに生まれてくる子どもたちのためであれば、今考えなくてはならないという局面に差し掛かっています。そして、約10年後の人口推移として、計画には令和15年の推計を示していますが、おおよそ1学年1クラスになってしまう推計となっています。篠岡地区はすべての小学校、中学校で、北里地区は小木小学校で、巾下地区は三ツ渕小学校で1学年1クラスになってしまいます。やはり、この計画を、今、動かしていかなければならないと思います。全国的な課題ですから、すでに着手している自治体も多いです。先進事例も研究しながら進めようとしています。ですが、100人が100人、諸手を挙げて賛成ということには、なかなかならないと思います。どうしても、合理的なことだけでなく、感情面や、積み上げた歴史に対する思いなどがありますから、難しい問題であると認識しながら、ご理解をいただくように計画していく必要があると思っています。

パブリックコメントを見ますと、再編に早くとりかかる必要がある篠岡地区・巾下地区からの意見が多いですね。篠岡地区の方から、篠岡地区に小中学校1校は厳しいのではというご意見がありました。篠岡地区は、まだ新しい校舎がありますので、それらの有効活用という面も含めて、段階的に再編を行う、という案で今考えているものではありません。

中川教育長)

そうですね。小学校1校・中学校1校と示されると、いきなり1校へ集約されると捉えられがちですが、そうではなくて、校舎の有効活用だとか、それから、篠岡地区は広い地区ですので、これらを考慮すると、段階的に、小学校2校・中学校2校ぐらいに再編し、その後の過程で児童生徒数が減少し、最終的に小学校1校・中学校1校に統合されていくイメージが自然ではないかと考えています。

山下市長)

小学校2校・中学校2校ぐらいということですから、おのずと見えてくるものがあると思います。

中川教育長)

桃花台地区の学校は、耐用年数がまだ十分ある校舎もあります。その一方で、篠岡小・中学校は耐用年数が本当に残り少なくなっています。例えば、一旦、篠岡小・中学校から、光ヶ丘小・

中学校や桃ヶ丘小学校・桃陵中学校へそれぞれ編入することが考えられます。そうすると、光ヶ丘小・中学校も、桃ヶ丘小学校・桃陵中学校も、小中学校が隣接した環境になります。私たち教育委員会としては、将来的には小中一貫教育を進めていきたいと思っていますので、それが比較的進めやすい学校が編入先の候補になってくとも思っています。その上でさらに児童生徒の規模が縮小していったら、やはりどこかの小学校1校・中学校1校に集約するという方法になるのではと私は思っています。教育委員会としては、やはり、こどもたちが社会に出て活かせるような力を身に付ける環境づくりということが、絶対に忘れてはいけない視点だと思っていますので、その視点から考えていきたいと思っています。

山下市長)

校舎の耐用年数や、校区の広さなどを考えると、段階的な再編ということも検討されているところですが、将来的には、さらに児童生徒数が減少していくことは避けられないものです。推計による10年後の児童生徒数を見ると、篠岡地区は小学校1校・中学校1校でもおかしくない規模になるということは明らかです。篠岡地区は、もともと篠岡小・中学校だけだったものが、桃花台ニュータウンの存在で、一気に学校を増やしてきた経緯があります。ただし、篠岡小・中学校は校舎がかなり古いです。仮に、将来的に1校にするとしたら、やはり歴史的な経緯からしても、篠岡小・中学校への集約が考えられますが、そうとなれば建て替えが必要となり、仮校舎だとかの大きな負担が生じます。その面も考慮すると、段階的に、まずは小・中学校2校ずつぐらいに集約をしておいて、並行して篠岡小・中学校の建て替えを進めて、将来的には、篠岡小・中学校へ統合するということが考えられると思います。そんなような議論を進めながら、段階的に再編となるのだらうと思っています。陶小学校は、教育環境の面で、一番早く対策しなければならない状況だと考えていますので、篠岡地区は統合・再編に向けて進めていく必要があると思っています。もちろん、篠岡地区の皆様方と十分議論して、ご理解をいただきながら、ということではありますが、可能な限りスピード感をもって進めていくべきだと思います。篠岡地区だけでなく、巾下地区・北里地区も、新たな学校づくりの第一段階として、早期に進めていかなければならない地区だとは考えていますが、統合にあたっては校舎の整備が同時に必要です。その中で、篠岡地区は耐用年数に余裕のある校舎がありますので、比較的進めやすいのではと思っています。

時間の都合もありますので、続いて、通学についてご意見を伺いたいと思います。統廃合となると、学校数が少なくなるわけですから、おのずと通学距離が伸びてしまいます。そのことについて、様々なご意見をいただいています。特に、小学校低学年のこどもたちには厳しいものがあるのではないかというご意見があります。スクールバスの導入について、多くのご意見が寄せられています。加えて、重いランドセルを背負って長い距離を歩くのは、良くないのではないかとご意見をいただいています。これは、私も以前から課題だと思っています。成長過程において、背骨などへの負担も指摘されていますから、この点も配慮しなくてはならないだろうと思っています。置き勉だとかの対策も、市として進めてほしいというお話をいただくことがあります。これについて、どなたかご発言いただく方があれば、ぜひいただきたいです。いかがでしょうか。

加藤委員)

やはり、通学距離・通学時間は、保護者の皆様が一番ご心配をされていることだと思います。昨年度、視察に行った自治体でも、やはり多くのご心配の声があったと伺いました。篠岡地区は非常に広い地域ですが、篠岡地区に限らず、かなり長い距離を通学して、歩かなければならない状況になっていくと思っています。計画の中に、通学距離の許容範囲としておおむね4kmが目安とありますが、大人の足でもなかなかの距離だと思っています。市の考えとして、スクールバスや、公共交通機関の利用と打ち出しているのですが、これをより考えていく必要があると思っています。例えば、小牧市では巡回バスが充実していて、いくつかの路線が運行されているので、登下校の

時間帯にプラスして、こどもたちがどこかのバス停に集合し、巡回バスに乗って通学することも検討してもよいのではないかと思います。どれぐらいの児童生徒が、どの程度乗車するのであれば、巡回バスを使うことが可能なのかなどを調べた上で、地域に応じて巡回バスの利用を考えてもよいのではと思っています。スクールバスもひとつの案だと思いますが、財政面だとか、なかなか難しい面もあると聞きます。巡回バスとスクールバスの両方を上手く融合させて、スクールバスを使う地域、巡回バスを使う地域があってもよいのかなと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。通学距離がかなり伸びるということの懸念があるのは当然だと思いますので、そうした中で、多くのご意見を、特に、スクールバス等の導入が必要だといったご意見をいただいています。安全に、安心して学校に通うことができる環境整備が非常に重要だと私も思いますので、通学方法についても考えていく必要があると思います。

巡回バスのお話をいただきましたが、こどもたちの住まいと学校の位置関係を見ながら、具体的な方法を考えていく必要があるだろうと思います。ただし、巡回バスは、病院や買い物だとか、幅広い年代やライフスタイルを背景とした様々なご要望をいただきながら、公共施設も含めて、色々な拠点を結んでいます。加えて、近年、運転手の確保が非常に厳しくなっています。そうした中で、数年おきに路線の見直し作業をしています。こういった山積する課題を思うと、通学の課題と巡回バスとは、切り離して考えた方がいいかもしれないと思っています。ただし、学校再編は10数年越しの検討ですから、その時々に応じた適切な形を考える必要があると思います。

いずれにしても、通学距離が伸びる分、スクールバスが必要だろうと思っています。もちろん、無料の送迎を担保しながら、学校の再編を進めていく必要があると思っています。安全な通学に不安のあるまま学校の再編についてのご賛同を得ていくことはなかなか難しいと思いますので、再編を進めていく以上は、通学への対応は再編計画と一体で示していくことになるだろうと思っています。小中学校25校を全て建て替えようとするすると相当な財政負担があります。もちろん、必要であれば建て替えなければならないものですが、児童生徒数からすると現在の規模の学校は必要ないと思われます。それと比べると、適切な規模の配置計画で建て替えていくのであれば、スクールバスを運行したとしても、経済的な課題をクリアできるのではないかと思います。基本的に、スクールバスの導入は、必要になる小学校が多いのではないのでしょうか。中学校は自転車通学ができるかもしれませんが、その辺りは具体的に検討を進める中で議論を重ねることができたらと思います。何か他にご意見はありますか。

伊藤委員)

私が懸念しているのは渋滞です。多くの方が車で通勤される時間にスクールバスが運行されると、さらに混みあうと思います。そうすると自然発生的に事故も多くなるかもしれません。もしそこに巻き込まれたらと、不安に思う保護者の方もいらっしゃると思います。登下校時間を少しずらすなど、様々な配慮がスクールバス導入時に必要となると思います。バス停や集合地点まで歩く距離も検討が必要になると思います。それから道幅の問題も生じると思います。自転車通学が多くなるのが予測されますので、それなりの道幅や自転車専用の道路をつくれるのか、歩道で走ることができるのか、10年後や先々のことは法律も変わるかもしれませんが、こういった問題への対応も必要になると思います。保護者の方が気にされていることは、こどもたちが安心安全に学校にたどり着き、そして学びを深めて、また安全に帰ってくる、というところだと思います。スクールバスなどの導入だけでなく、通学に付随するその他の部分も整備が必要になると思います。

山下市長)

やはり一番心配されるのは、交通事故や、安全に通学をするということだと思いますので、その点は最大限配慮されるべきだと思います。私も、中学校に通っている時、一定数、自転車通学の生徒がいました。通学距離の長い生徒は許可制で自転車通学が認められていて、ヘルメットをかぶって通っている生徒がいました。一部、電車通学の生徒もいました。やはり、交通安全指導などを徹底する必要があるだろうと改めて思っています。スクールバスについては、確かに道幅等の問題も一部出てくるかなと思っています。私の今の考え方として、基本的には、ご自宅の近くまでぐるりと回るか、集合場所を決めて乗車するかといったイメージになると考えています。その時その時の児童生徒の分布で、乗車方法やルートを毎年度変更して運行する形になるのではないかと思います。スクールバスであれば、乗車までの距離的な問題は、そこまでないのではないかと思います。巡回バスの利用となるとバス停までの課題があるかもしれません。巡回バスの利用については、先程申し上げたとおり、色々な課題があって、なかなか簡単ではないですから、おそらくイメージとしては、スクールバスを運行して、児童生徒の自宅の分布を見て、ルートを学校で毎回話し合っただけで決めていくことになるだろうと思っています。必ずしも全ての児童生徒の自宅近くまでスクールバスを運行、ということではなく、学校から距離のある地域だとか、どこかの距離で線引きすることになるだろうと思っています。これは他の自治体の事例が多々ありますので、十分参考にして検討していくことになるだろうと思っています。学校の再編・統廃合において、通学距離の問題はありますが、これは、スクールバスの導入を含め、対応策で何とか解消しながら、まずは、減少する児童生徒数に応じた教育環境の整備というか、一定の規模を維持していく方法を模索することが重要だということに議論を進めていきたいと思っています。その点、教育長の認識はいかがでしょう。

中川教育長)

そうですね、市長がおっしゃった意見と同様です。こどもたちの毎日の登下校の負荷が増大することについては、当然、再編を進めていく中で、同時並行して議論しなくてはならないと認識しています。地域によっては本当に道路幅が狭いところもありますから、スクールバスの運行については、道路の実態、通行量などの情報も考慮しながら、また、全国の先行事例をよく研究した上で、取り入れていけたらと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。安全のことはありますが、毎日一定距離歩くことは体力がつくという面もあります。こどもの頃にある程度歩いた方が良いという意見もありますからね。ただし、安全にということが大前提ですので、再編とセットで議論しながら進めていきたいと思っています。

では、次にいきたいと思っています。人口増加対策と学校再編についてです。どなたか何かご意見はありますか。

古田委員)

人口増加対策については、私たち教育委員会がコメントすることが非常に難しいと感じています。一方で、やはり小学校などが、地域のコミュニティの核という重要な役割を果たしてきたということは、きちんと捉えておかななくてはならないと思っています。ただ、そのためにいくら小規模校であっても必ず残さなくてはならないという議論は、教育環境の整備とは異なる話題だと思います。人口増加対策は、それこそこの総合教育会議の場で、市長はじめ首長部局へお願いしなくてはならない事柄だと思っています。地域経営の観点からは、首長部局の方で基本的にイニシアティブをとっていただいて、その中で学校も協力していくというのが検討のあり方ではないかと思っています。そのため、なかなかこの人口増加対策に関する意見に対して、教育委員会の考え方として明確に示すことは難しいですが、やはり、私たち教育委員会としては、こどもたちの教育環境を第一に考え、再編の計画は教育委員会が進めなくてはならないと考えています。と

はいえ、まちづくりをないがしろにすることは本意ではないので、そこは市長をはじめとした首長部局と上手く協力しながらやっていかななくてはならないと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。特に、桃花台ニュータウンは高齢化が著しく、今後、空き家の増加なども予測をされています。現在、東部振興構想を策定して、定住人口を増やしていこうと、市と地域の皆様方とで連携して、様々な取組を進めているところです。これから住む人を増やしたいという思いでいらっしゃる方からすると、このタイミングで学校再編という、人口減少を前提とした話題は、違和感を抱かれる面もあるかと思います。人口減少を前提に学校を少なくする前に、まず人口増加をもっと頑張ろうよというご意見は、ある意味とても前向きな議論で、そういったポジティブなご意見をいただけるということは、非常に喜ばしい、心強いことだと感じています。一方で、ここまで議論したとおり、学校再編とは少々次元が違う部分があります。現代のこどもの減少というのは、かなりスケールの大きい、スピードの速い、構造的な問題を含んだ社会課題です。我々が目指す人口増加対策を着実に行って、例えば空き家を埋めて、新しい人に定住してもらって、果たしてそれがこれまでの学校規模を維持して余りあるようなインパクトまで到達できるのかというと、なかなかこれは現実的ではありません。というのは、人口減少は全国的に進行していて、これはもうなかなか止めようがない局面にあります。今もどんどん減少が続いていて、一説には東京 23 区でも 3 区を除いてすべての区で人口が減って、100 年後に全国 5000 万人を割り込むのではないかというスピードの人口減少に対して、何とか少子化対策を行って、ここを 10 年、15 年のうちに合計特殊出生率を回復させて、何とか国全体で 8000 万人にできないだろうか議論されているような状況です。8000 万人ですら厳しいのではないかという声もありますが、1 億 2000 万人からすると 3 分の 1 もの減少にあたります。そんな中であって、そもそも桃花台ニュータウンの学校数は人口のピークに合わせた数ですから、人口増加対策で何とかするというには厳しいものがあると思っています。いずれにしても、急激な人口減少を迎える社会にあって、学校を維持していくために人口増加を前提とすることには厳しいものがあると思います。もちろん努力をしていますが、それとは別に、すでに現状で陶小学校が 1 学年 1 クラスになっているように、教育委員会が望ましいとする、クラス替えができる規模を下回る学校がいくつかある状況ですので、早急に手を打つ必要があります。また、児童生徒数が少なすぎて部活動ができないなど、色々な課題のお声があります。やはり、一定の学校規模を維持していく必要があるのだという認識を前提に、今、議論を進める必要があります。

子育て世帯を流入させたいと、市としても強く思っていて、首長部局で様々な取組を進めています。子育て世帯に対する住宅購入の補助など、様々な政策を実施しています。一方で、パブリックコメントにも、学校が遠くなるような地域に住みたいとは思わないといった声がありますが、市の考えとしては、良い教育環境を維持・整備していくことが大事なのであって、これによって選ばれる地域をつくっていく必要があると思います。学校の数だけを維持して、充実した教育環境ではないとすると、それがむしろデメリットになっていくということもあります。最初に考えるべきことは、はじめから一貫していますが、子どもたちにとってより良い教育環境は何なのかだと思っています。そして、子どもたちにとって良い教育環境をつくっていくことが、子育て世帯に選ばれる地域だと思いますので、このように教育委員会で意見をまとめていただきました。私もこれに同感ですので、この考えのもと、より良い教育環境の整備に向けて、統廃合が必要であれば進めていく必要があると考えています。本件について、教育長からも一言いただければと思います。

中川教育長)

今、市長がおっしゃったとおり、教育委員会としては、まずは魅力ある、本当に素晴らしい教育環境を子どもたちに提供できるようにしていくことが一番だと考えています。そこで学ば

い、通いたいと思えるような学校づくりが必要だと思っています。そして、これまで連綿と受け継がれてきた伝統とはまた違う、新たな学校を地域の中につくりあげていくのだという思いを、持っていただけるような学校づくりが必要だと思っています。これを教育委員会で取組んでいけたらと考えています。

山下市長)

継続して人口減少傾向が続いている中で、これを食い止めて、さらに元に戻していくということは、どこの自治体も人口減少が課題ですから、ある意味自治体間競争になっています。小牧市では、そんな中で、特に子育て世帯を増加させたいということで、こども夢・チャレンジNo.1 都市を掲げて、子育て支援の充実をずっと図ってきましたので、ある程度選ばれるまちになってきていると思います。先日も、小牧市は非常に子育て支援が充実していると小牧市の友達から聞いていると、他の地域で子育てしているお母さんがおっしゃっていました。このように、小牧市が子育て支援に力を入れていることが、他の地域にも浸透していると感じる機会もあります。一定の成果が出てきているのかなと思うのですが、一方で、これで減少傾向が解消されて、社会増で小牧市だけこどもがどんどん増えていくような環境になるかということ、社会全体の傾向としての少子化ですから、小牧市だけが20年、30年ずっとこどもを集める、増やしていくことは、現実的ではないと言わざるを得ないです。やはり、現状を踏まえた対策が必要だと思いますし、より良い教育環境を維持して、さらに整備をしていくのであれば、学校の再編、統廃合が必要だという、議論の一定の結論がここにありますので、これを市民の皆様と共有しながら、検討を進めていければと思います。人口増加については、市として様々に取り組んで参りたいと思いますので、教育委員会にもご協力をいただきたいと思います。

では、次にいきたいと思います。学校規模の小規模化についてということでご意見をいただいています。その他にも様々なご意見をいただいておりますが、内容ごとに分類し、ある程度まとまった意見をいただいておりますので、最後の分類として、学校規模の小規模化についてお話をしたいと思います。簡単に言いますと、より良い教育環境をこども達のためにつくるという、根本的な立ち位置に反対の見方もあるということです。より良い教育環境をつくるという考えは一緒だけれども、クラス替えができるような一定の規模が必要で、1クラスではデメリットがあるという考えに反対の意見が寄せられています。この点について、皆様のご意見はいかがでしょうか。

伊藤委員)

パブリックコメントのご意見や、地元の方からのお話で感じたのは、愛校心や地域への愛情ゆえに、学校が自分の地域からなくなることに對する不安が、違う形でこのように出てきているのかなと感じました。資料2に、小規模校の課題とありますが、メリットもあったはずなのに、課題だけがクローズアップされています。小規模校には、地域の方の支えがあって成り立ってきた年月があり、それを認めた上で、なおある課題を議論しているということがわかればと思います。

やはり、市内全域の小中学生に、いつでも公平な体験機会を与える、与えなくてはならないのが学校組織だと思っています。それを考えると、人数の少なさによる色々な課題が現れてきています。アンケートの結果でも、多種多様な環境の中で学びを深めたいと、保護者の方も教員の方も口を揃えておっしゃっています。グループ学習で色々な話し合いをしていきたい、クラス対抗で色々なことを競い合いたいという意見もあります。部活動にしても、ある程度の学校規模があれば、多様性、選択肢が増えるわけですから、そういったことを考えていくと、やはりこどもたちを第一に考えて議論していく必要があると思います。先程、古田委員もおっしゃいましたが、学校は地域の方にとってもとても大切であって、これは当然だと思いますが、こどもたちの教育環境とは分けて考える必要があると思います。学校という教育現場の施設面・環境面を考えると、地域の核としての存在は、ある程度分けて考えていかななくてはならないのではないかと思

います。

学校規模が小規模だといけないということではなくて、小規模だけれど地域で子どもたちを見守ってきたというのは、伝統的な大事な仕組みだったと思いますので、そこは汲み取った上で表現することが大切だと思います。こういう場で感情論はふさわしくないかもしれませんが、地域の方の感情からするとそのように思いました。

山下市長)

非常に重要な意見をいただいたと思います。小規模校には小規模校のメリットがあります。実はこの計画の中にもそのように記載がありますが、概要版ということで小規模校の課題が大きくなってしまいました。小規模校には小規模校のメリット、デメリットがあって、デメリットをいかに補いながらメリットを活かしていくのか、様々な地域の方の協力を得ながら進めてきました。ただ、市全体として、これからの小中学校がどういう方向を目指していくかと考えたときには、やはり、一定規模があった方がより望ましいということで、この方向を目指していこうというのが現在の議論です。当然、規模が大きくなった場合のデメリットもあります。メリット、デメリットを総合的に考えて、全体としては一定規模を維持していく必要があるという結論が、今ここに提示されています。この辺りは十分理解をしておりますので、丁寧に説明しながら進めていく必要があると思います。

それから、もう一つ重要なご意見をいただいたと思うのは、やはり感情論ではなくて、理性的な議論の中で考えていく必要があるということです。学校現場が教育面においてどうあるべきなのかということ判断していく必要があると思います。

地域の皆様に合意形成を図るのは、学校には歴史と伝統もあるし、地域のまちづくりの拠点・核であることを踏まえたものです。子どもたちを置き去りにした感情論やノスタルジーではなく、学校現場として教育環境がどうあるべきなのかということを経済委員会としっかり議論した上で、市民の皆様方にご理解をいただけるように、粘り強くお話ししていくことが必要だと思います。総合教育会議が、そのための一つの大事な役割を果たすと思います。今回は1年以上じっくり積み上げてきた考え方を提示してのご意見ではありますが、先程お話にあったとおり、学校がなくなってしまうということに対する感情的な背景があって出されたご意見も、少なからずあるのではないかなと、私も感じています。そういったご意見に対しては、丁寧にしっかりと、子どもたちの教育現場における必要性をご説明申し上げながら進めなくてはならないと思います。

中川教育長)

小規模校だとか伝統のある学校には、そういう思いというものが必ずあると思います。ただ、ここ数年でとても危惧していることは、社会の動きがこれまでとは大きく変わってきていて、ICTだとか DX だとか様々叫ばれる中で、今の子どもたちがこの先行き不透明な社会でたくましく生きていこうとしたときには、やはりそれなりに多様な価値観の人達と交わるだとか、社会に触れる力を身に付けなければならないと思っています。地域の中で支えられながら、より良く生きていくことも大事だとは思いますが、先程の力をつけるためには、ある程度の学校規模が必要です。確かに小規模であれば、きめ細かに一人一人と関わることはできますが、小牧市の教育委員会ではすでに、スクールサポーターや学校生活サポーターなどで、きめ細かな指導に取り組んでいます。学級規模が小さくなればきめ細かな指導ができるというわけではなくて、そういった対応については別の方法でも十分取組みながら、この社会の中で生き抜く子どもたちを育てていくということが、教育委員会にとって非常に大事な観点だと思っていますので、そこはご理解いただけるようにまたお話をしていきたいと思っています。

山下市長)

学校規模の小規模化についてご意見をいただきましたが、小牧市としては、一定規模の中で切磋琢磨していくことが大事だという議論となっています。そうした中で、一人一人に目が届くような環境整備も同時に図っていききたいといった意見です。私もそのように思います。

他にも色々なご意見をいただきました。28名の方から60件が寄せられました。時間の都合もありますので、会議での議論はここまでとします。市・教育委員会ともに、この貴重なご意見を受けとめて、計画に反映していこうという思いです。

最後に私から1点だけ申し上げると、教育以外の学校施設の利活用ということで、特に防災面で避難場所として活用することが、地域の皆様にとって特に関心が高いと思っています。校舎自体は老朽化していけば、いずれ使えなくなって取り壊していくことになります。統廃合後の校舎を何かに整備することは、財政面からして慎重であるべきで、学校がなくなったから何かつくるのではなく、必要なものを整備してきたのであって、これからもそれは変わりません。その観点からして、防災については、学校が廃校となったとしても、いざというときの避難所としての役割や、防災の拠点としての機能を維持していく必要があると思っています。このことは、再編の議論を進めていくと、どうしてもぶつかるテーマであって、これを教育委員会だけでは突破できないと思いますので、市長はじめ首長部局としては、防災面の機能を維持していくということについて、基本的な考え方の整理をしておきたいと思っています。その点を、市民の皆様のご理解をいただく中で、議論していけるといいと思っています。例えば、昨今は酷暑ですから、体育館にエアコンを整備してほしいという声や、全国的な動きもあります。こういったことも、再編、統廃合の議論とは別に考えていく必要があるのではと思っています。

それではですね、本日のテーマであります、新たな学校づくり推進計画について、市民の皆様からいただきましたご意見をご覧いただき、議論してまいりましたが、概ねご意見も出たようですので、会議はここまでにしたいと思っています。本日いただきましたご意見を踏まえて、今後の計画の最終的な取りまとめ、そして、より良い教育環境の整備、推進に向かって、市長としても、教育委員会と連携をしてしっかりと進めてまいりたいと思っています。引き続き、情報共有、意見交換をしながら取り組んでいきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

その他

本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告。